

俺の恩師は堀貞一（クレイジージャーニー）

奨励	宇田 慧吾（うだ・けいご）
奨励者紹介	日本キリスト教団丹波新生教会牧師

あなたたちは生まれた時から負われ
胎を出た時から担われてきた。
同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで
白髪になるまで、背負って行こう。
わたしはあなたたちを造った。
わたしが担い、背負い、救い出す。
（イザヤ書 46章3 b―4節）

喘みましたねえ（笑）。ちょっと面倒な題をつけて申しわけないです。今日はたくさんの方と礼拝できること、本当に嬉しく思います。特に今日は、宗教改革500年の講演とか、AKB 48のまゆゆの卒業ライブなんかもあって、それを諦めて来ておられる方もいるかと思います。ありがとうございます。

今日は、長野から友達に来ていましてねえ、子育てをしている友達なんです。2歳ぐらいの男の子がいて、朝10時からさっきまで一日一緒にいたんで、「かわいいねえ、いっぱい食べるねえ」なんて言って、普段使わない顔の筋肉を使いまして、さっきここで『チャペル・アワー奨励集』に載せる写真を撮ったんですが、ちょっと変な感じの顔になっちゃったんです。まあ、それも写真を見て楽しんでください。早くちゃんと話せという顔をしている方もおられますので、お話ししますね。

旅人になります

チャペル・アワーの場所が神学館礼拝堂だと聞いて、すごく懐かしいって思ったんです。神学部の方ってどのくらいおられるんですか。ああ、わりと他学部の方もおられるんですね。ありがとうございます。神学部は栄光館での卒業式が終わった後に、学部の卒業式がここであるんですね。そこで一人ずつ順番に前に出てきて抱負を言うんです。大体の人は「どこそこの企業に決まりました」とか「大学院に行きます」とか言うんですが、私は「旅人になります！」って言ったんです。その気持ち、どういものかと言うと、卒業する時というのは大きな転機だったんです。

一つには、18歳で牧師になりたいと思って神学部に来た。それからわりと順調にやっていたんです。学部4回生になった頃には「大学院に行ってる暇なんてない。一刻も早く牧師になりたい」と思うんです。それで教会で説教するようになるんですが、やってみて思うことは、世の中で50年も60年も自分よりも長く生きてきた人たちの生きることの大変さ、そういうものを知らない自分が一体何を語れるんだろう。いや、何も語ることはできない。今の自分に必要なのは、世の中で生きることの苦勞を学ぶことじゃないかって思うんですね。それで、18歳の頃から牧師になりたいと思って勉強してきた、それが無理だとなってるんですね。でも、これは比較的浅いダメージなんです。もっと大きいダメージは、当時3年半くらい付き合っていた彼女がいたんですが、その彼女に卒業の少し前くらいに失恋するんですね。しかも、その彼女は、全くキリスト教を知らない中から神学部に来て、だんだんとたくさんの人との出会いの中で教会に行くようになって、ついに洗礼を受けるってなったんですね。「やった！」と思っていたら、洗礼式の日に教会に来なかったんです。それがショックだったんですねえ。一番近い距離で、一番長い時間たくさんかかわった人にすら、キリスト教を伝えられない。そういう自分が牧師になったところで、一体誰にキリスト教を伝えられるんだ。そう悩みました。それで、就職もしない、大学院にも行かない、何も決まっていない、そういう気持ちで「旅人になります」って言ったのが22歳でした。

夜の接客業・失踪・恋・神さまの責任で

その後どうなったかと言うと、すぐに東京に行って夜の接客業を始めるんですね。それから、一緒に住んでいたニートがいて、そのニートを中東横断の旅に連れて行きました。それから、自衛隊に入ろうとするんですね。無事試験に受かって入隊前に、一番よくを応援してくれていた同級生に報告しようと思って、京都に来たんです。それで出町柳の飲み屋で「自衛隊に行くことにした。いつか牧師になろうと思う。そのための勉強として」と言ったら、「自衛隊に行っちゃだめだ。宇田さんは自分に牧師としての召命があるかどうかで迷っているけど、俺の召命ははっきりしてる。それは宇田さんを牧師にすることだ」って彼が言うんですね。さらに「宇田さんは自衛隊に行かないで、俺と来年1年間、一緒に聖書を読むんだ」って言うんです。それで京都に戻って来て、1年間、・・・あつ、1年間というのは嘘です。半年間、ファミリーマートでアルバイトをしながら、彼と毎日聖書を読んだり、祈ったり、召命を問う、そういう時間を過ごしました。それで半年経つと「やっぱり無理だ！」ってことで、北海道の知床に逃げるんですね。知床の温泉宿で住み込みの仕事をしました。そこでですねえ、内地から来ている別のアルバイトの女の子がいたんですね。あらかじめ言っておきますけど、私は本当にしょうもない人間なんです。どうぞ落胆しないでください。その女の子と当然恋に落ちるんですね。知床、リゾートバイト、当然ですね。・・・え、そうでもないですか。それで結婚しようと思うんですね。お風呂に入りながら考えるんです。結婚するなら、リゾートバイトじゃ相手の親御さんにも示しがつかない。もうちょっと示がつかような仕事をしよう。自分がちゃんと続けられる仕事って何なんだろう。・・・牧師しかないな、と。それですぐに牧師に電話をしまして、「試験を受けたいです」と言ったら、牧師は「やった☑」と喜んで、準備を進めてくれたんですね。その瞬間思いました。自分は牧師になって、本当に人のために働けるんだろうとか、自分には牧師になる資格があるんだろうとかか悩んでいたわけですが、そんなのは自分の考えであって、神さまはこんな手まで使って自分を牧師にするんだなと思うと、だとしたらもうぼくの責任じゃない、神さまの責任で牧師になろうって思ったんですね。

そうして牧師になってかれこれ3年くらい経つんですね。ここまででは自己紹介です。私はこんな程度の人間なんです。どうってことないでしょう。だから気楽に聞いてくださいね。

クレイジージャーニー

今日は特に二つ、お話ししたいことがあるんです。一つは題名のとおり、「クレイジージャーニー」ですね。題名について少しお話ししておきますと、この題名、印刷されたものが届いた時、「あちゃー」って思ったんです。別におもしろくもなく、インパクトもなく、ただふざけているような題名になっちゃったんですが、これは題名を考えている時に妻と一緒に「HUNTER×HUNTER」を観ていたんです。「HUNTER×HUNTER」を観ている方はご存知ですね。「愛の絆」って書いて「バンジーガム」とか読みますよね。それで、こんな題名に・・・。

まず一つめのクレイジージャーニーですね。自分の歩んできた道を振り返ってみると、ろくな道じゃないんです。自分なりに悩んで、自分なりに真剣に選んできた道ですが、こうやって話してみたら「ええー、こんな人大丈夫なの」っていうようなそんな道でしょう。でも、やっぱりこうやって今振り返ってみると、クレイジージャーニーできて本当にありがたかったなって思うんです。一つひとつ、その出会いの中で、たくさん良いものをいただきました。

堀先生 情熱と情熱と情熱

もう一つは、堀貞一先生のお話なんです。堀貞一という名前をもともとご存知だったという方はおられますか。・・・おお、すごいですね。私が堀先生とお会いしたのは4回生くらいの時ですかね。石川洋先生という方がおられて、石川洋先生は、松下幸之助さんが師として仰いだ方なんです。その石川洋先生のお師匠に西田天香さんという方がいるんです。一燈園という、ご存知の方も多そうですね。西田天香さんのことをいろいろ調べていたら、天香さんに洗礼を授けたのが堀貞一先生だったんです。それから少し、堀先生のことを調べるようになって、最初に知ったのは、同志社墓地に堀先生のお墓があることです。神学部の方は校祖墓参に行きましたね。あの墓地に入ると、正面に新島襄先生のお墓があるじゃないですか。その一番左の一番奥の隅っこに、小さい小さい堀先生のお墓があるんです。私は堀先生のお墓を知ってから、お墓参りに行くようになりました。

私が堀先生を好きな理由をざっくりお話ししますね。堀先生というのは、ウィキペディアでひくと「リバイバリスト」って書いてあるんです。新潟教会とか梅花教会で一度に何百人という人に洗礼を授けたんですね。同志社でも、同志社教会の50周年の礼拝に呼ばれて、そこで同志社の学生さんと教職員300人くらいに洗礼を授けるんです。それが一般的に知られている堀先生なんですが、実はもっとおもしろい方なんです。

学生時代は「鼻たれ小僧」って呼ばれていたんですね。先輩は熊本バンドの海老名弾正とか金森通倫とかです。その後輩にあたります。当時、海老名と金森が丹波伝道に行っていたんですね。亀岡のあたりです。堀先生は亀岡の出身なので、「お役に立ちますから」と頼んで、一緒に連れて行ってもらっていたんです。ところが、海老名も金森も卒業することになった。後任者を探すことになった。当然、堀先生は「私が」と言うんですが、それを聞いた新島襄は「いくらなんでも堀君じゃあ、旅費は出せませんよ」と言うんですね。堀貞一というのはそういう学生だったんです。徳富蘇峰も堀貞一について「彼はいつもクラスでビリだった。お祈りが熱心なおかげで進級できたようなもんだ」と、そういう風にな言われていた人なんです。

でも、彼はすごいんです。「旅費は出せません」と言われたことについて後で振り返って、「私は本当にあの言葉に感謝している」と言うんです。なぜかと言うと、「旅費は出せません」と言われて考えたそうです。「旅費をもらえるから伝道に行くのか。旅費がもらえなかったら伝道に行かないのか。そうじゃないだろう。旅費をもらえなくても伝道に行くんだ」と決意し、一銭でわらじを買って亀岡まで歩き、帰日も一銭でわらじを買って歩いて帰る。それを毎週行うんですね。親戚の家に泊めてもらう。でも親戚の家も3回目くらいで居づらくなる。なかなか話を聞いてくれる人もいない。「困ったなあ」と思っていたら、そこから助けてくれる人が現れて、「うちでご飯を食べてください」「うちで泊まってください」ということになる。この堀

貞一の伝道から、村上太五平さんという、私が今いる丹波新生教会の重要な創設メンバーの一人が生まれてくるんですね。

堀先生のことを私はどう思っているかと言ったら、「情熱と、情熱と、情熱しかない牧師」なんです。学識もないし、社交性が高いというわけでもないし、でも、とにかくその堀先生の情熱、真っすぐさ、自分をどうか用いてください、そういう気持ちがたくさんの人に伝わっていったんですね。先生のことを書いている一人の後輩は「自分は賢くもないし、何の力があるわけでもないけど、堀先生のような牧師になら、自分もなれるかもしれない」と言うんですね。私もそう思っているんです。別に勉強ができるわけでもないですし、何か優れたところがあるわけでもないんですが、でも自分が、やっぱりキリスト教と出会ったことで、また同志社でたくさんの方と出会ったことで、本当に救われてきた、そのことをお伝えすること、それだけならできんじゃないかなって、いつも励まされるんです。

私が担い、背負い、救い出す

少し聖書のお話をします。今日、イザヤ書を読みました。大事なポイントが三つ書かれています。この三つはぜひ憶えていただきたい。なぜこの聖書箇所を選んだかというと、私が失恋した彼女が洗礼を受けようと決めるきっかけになった聖書箇所なんですね。三つ大事なポイントが書かれています。一つは「わたしはあなたたちを造った」です。二つめは「わたしが担い、背負い」で、三つめに「救い出す」。この三つですね。

神が「わたしはあなたたちを造った」。こういう時、聖書の大前提として、神は良いものとしてすべてのもの、すべての人を造りました。私たちみんなそうなんです。良いものとして造られています。私たちは自分のことをしょうもないな、どうしようもないなと思ったり、相手のことを勘弁してくれよと思ったり、社会のことを勘弁してくれよと思ったり、いろいろありますが、神は間違いなく良いものとして、すべてのものを、この世界を造っています。それをどこまでも信じて、自分のことも、相手のことも、確かに良いものとして神は造った、これを信じるのがキリスト者です。

でも、私たちは信じることができずに苦しみます。良いものだって本当に分かっていたら苦しむ余地なんてないじゃないですか。病気も老いも失恋も弱さも欠点も、良いものとして造られていると信じることができたら、それはもう何の苦しみもないですね。でも、私たちが苦しむのはやっぱり、信じる力がないからなんです。信じることができない、だから苦しむ。そういう私たちのことを神は「担い、背負う」と言っています。それは上から「信じなさい」って言うんじゃないくて、上から何かを教えるんじゃないくて、私たちが良いものとして造られたのに、それが信じられなくて苦しい時には、神が私たちのことを「担い、背負う」と言っています。

そして三つめに、わたしがあなたたちを「救う」と言っています。人間は人間のことを救うことはできません。私も皆さんのことを救うことはできません。でも神は、わたしがあなたたちを「救う」と断言しています。それは、わたしがあなたたちを良いものとして造ったからだし、またそれを信じることができない人のこともわたしが背負うと言うからですし、そう背負って最後のところまでわたしが「救い出す」と宣言しています。この三つのことを信じるのがキリスト者だと、私は思っています。

ここまで自分が歩んできた道を振り返ると、恥ずかしいですね。恥ずかしい限りですが、でも、こんな風に私を造って、こんな風に私を背負って、こんな風に私を導いてくれた神さまに、ぼくは本当にありがたいなと思っています。また私のことを神さまが救ってくれたように、皆さんのことも神さまがいつも愛してくれていること、そのことをお伝えしてお話を終わりたいと思います。

〔参考文献〕

堀貞一『新島襄先生に就いて』同志社大学 1928年

日本基督教団同志社教会編輯『堀貞一先生追憶集』日本基督教団同志社教会 1953年

管井吉郎『堀貞一先生』基督教書類會社 1944年

2017年10月31日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録